

国内希少野生動物植物種に追加する種の概要

<哺乳類>

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>1. ケナガネズミ (<i>Diplothrix legata</i>)</p> <p>分類： ネズミ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>背中は黄褐色、腹面は暗褐色の大型のネズミである。3種類の毛があり、褐色の普通の体毛と背中に多数の剛毛、および先端は黒褐色で基部は灰白色の扁平な針状毛を持つ。尾の基部3/5は黒褐色、先端2/5は白色。非常に大型で、在来ネズミ科動物では最大。頭胴長220～330mm、尾長246～330mm、後足長49～60mm、耳長20～25mm、頭蓋基底全長45～52mm。奄美大島ではアラカシ林、伐採地、イタジイ林、徳之島では森林率60%以上、沖縄島では植被度90%の極相のイタジイが優占する群落（他にイスノキ、タブノキ、タイミンタチバナなど）に生息する。</p> <p>鹿児島県、沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコ等による捕食）。</p> <p>国の天然記念物に指定されている。</p>
<p>2. オキナワトゲネズミ (<i>Tokudaia muenninki</i>)</p> <p>分類： ネズミ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>近縁のアマミトゲネズミより大きく、トクノシマトゲネズミよりやや小型。毛色は背中が黒とオレンジ色を帯びた黄褐色、腹面が灰色がかかった白色で、アマミトゲネズミより体色の赤みが強い。和名の由来であるトゲ状の毛は3種類あり、先端は褐色が強いやわらかい上毛、先端は黒褐色で鋭く尖がり扁平でうすい黄褐色か灰色の針状毛（長さ約20mm、幅約1mm、口吻部と四肢を除く）、および先端は黒褐色で基部は黄褐色の差し毛（長さ30mmで背面のみ）がある。頭胴長112～175mm、尾長92～132mm、後足長29.8～35mm、頭蓋基底全長30.3～38.2mm。平均樹高12mのマテバシイ、イタジイ、イスノキ、イジュなどが優占し、林床植物の被度が高い林齢30年以上の森林地域に生息し、木や草の種実、昆虫を食べる。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコ等による捕食）。</p> <p>「トゲネズミ」として国の天然記念物に指定されている。</p>

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>3. アマミトゲネズミ (<i>Tokudaia osimensis</i>)</p> <p>分類： ネズミ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>近縁のオキナワトゲネズミやトクノシマトゲネズミよりやや小型。背中は黒とオレンジ色を帯びた黄褐色、腹面は灰色がかかった白色で、オキナワトゲネズミより体色の赤みが弱い。和名の由来であるトゲ状の毛は3種類あり、先端は褐色が強いやわらかい上毛、先端は黒褐色で鋭く尖がり扁平でうすい黄褐色か灰色の針状毛（長さ約20mm、幅約1mm、口吻部と四肢を除く）、および先端は黒褐色で基部は黄褐色の差し毛（長さ30mmで背面のみ）がある。頭胴長89～160mm、尾長61～135mm、後足長24.5～34mm、頭蓋基底全長31.2～35.6mm。ウラジロガシやイジュ、スダジイなどの常緑広葉樹林に生息し、その樹洞や根株に隠れる。</p> <p>鹿児島県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコ等による捕食）。</p> <p>国の天然記念物に指定されている。</p>
<p>4. トクノシマトゲネズミ (<i>Tokudaia tokunoshimensis</i>)</p> <p>分類： ネズミ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>毛色は、背面が暗褐色ないし赤褐色、覆面は明灰色。尾は背面が黒褐色、覆面は白い。和名の由来であるトゲ状の毛は3種類あり、先端は褐色が強いやわらかい上毛、先端は黒褐色で鋭く尖がり扁平でうすい黄褐色か灰色の針状毛（長さ約20mm、幅約1mm、口吻部と四肢を除く）、および先端は黒褐色で基部は黄褐色の差し毛（長さ30mmで背面のみ）がある。頭胴長155±14.3mm、尾長117.5mm、後足長37.5±0.71mm。トゲネズミ属の3種の中では、頭胴長ではオキナワトゲネズミに近似し、アマミトゲネズミより大型、後足長ではオキナワトゲネズミに類似しアマミトゲネズミより長い。トクノシマトゲネズミは頭蓋基底長でもっとも大型。スダジイ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹林で、大径木からなる自然林や過去に伐採を受けた二次林に生息する。</p> <p>鹿児島県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（ノネコ等による捕食）。</p> <p>国の天然記念物に指定されている。</p>

<爬虫類>

種 名 (学 名)	指定 要件*	指 定 理 由 ( 生 息 状 況 等 )	
5. ミヤコカナヘビ ( <i>Takydromus toyamai</i> )  分類： カナヘビ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、 ウ、エ	①種の特徴	体型は細長く、尾が長い。全長160～220mm、頭胴長45～60mm。背面は草色で淡褐色がかかることもある。アオカナヘビと体色は似ているが、アオカナヘビに見られる頭胴部側面の白線がなく、また、四肢が褐色な点で区別できる。雌雄同色である。咽頭板は3対、鼠径孔は1対でアオカナヘビと同様だが、腹面鱗列数がアオカナヘビ6列に対してミヤコカナヘビは7列。明るい草地に生息する。林縁部や畑周辺の低い樹木も利用する。民家の庭などの小さな緑地においても生息できる。
		②分布域	沖縄県
		③個体数	不明
		④減少要因	開発等に伴う生息地の減少、農薬汚染、外来種による影響（インドクジャク、イタチによる捕食）、愛好家等による違法採取等。
		⑤その他	宮古島市の自然環境保全条例で種指定されている。

## ＜両生類＞

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)	
<p>6. ホルストガエル (<i>Babina holsti</i>)</p> <p>分類： アカガエル科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN) 固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成体の頭胴長は、オスで100～124mm、メスでは103～119mm程度。頑丈な体格で、頭部は広く、頭幅は頭胴長の39%ほど。第1指の内側に、骨質の棘が納まった肉質の袋状の拇指が発達する。背面は比較的滑らかで、顆粒の発達は微弱。近縁のオットンガエルとは、胴背面および側面の隆起が弱いことで区別できる。常緑広葉樹の自然林、良く回復した二次林に生息し、亜成体は陸貝類や小型ないし中型の昆虫類を、成体では大型の昆虫類やムカデ類、小さなヘビ類等を捕食する。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコによる捕食）。</p> <p>沖縄県の天然記念物に指定されている。</p>
<p>7. オットンガエル (<i>Babina subaspera</i>)</p> <p>分類： アカガエル科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN) 固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成体の頭胴長は、オスが平均124mm、最大138.5mm、メスでは平均119mm、最大131.6mm。頑丈な体格で、頭部は広く、頭幅は雌雄ともに頭胴長の40%程度。第1指の内側に肉質の袋状の拇指が発達する。脇腹には普通、顕著な顆粒が並ぶ。成熟したオスには前肢の付け根の脇腹部分に扁平なケロイド状隆起がある。形態、生態とも近縁のホルストガエルに似るが、背面のイボが発達すること等により識別できる。常緑広葉樹の自然林、よく回復した二次林に生息し、サワガニ類、マダラカマドウマ、オオゲジ、ミミズ類、ナメクジ類などを捕食する。</p> <p>鹿児島県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコによる捕食）。</p> <p>鹿児島県の天然記念物に指定されている。 奄美大島の5市町村の希少野生動植物の保護に関する条例で種指定されている。</p>

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)	
<p>8. ナミエガエル (<i>Limnonectes namiyei</i>)</p> <p>分類： アカガエル科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I B類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	成体の頭胴長は、オスで79～117mm、メスで72～91mm程度。非常に頑丈な体格で頭部が大きく、頭幅はオスでは頭胴長の51%、メスでも45%ほどに達する。鼓膜は皮膚の下に隠れ外見的には不明瞭。胴部背面の皮膚には不規則な隆起が密にある。体色は茶褐色ないし灰褐色で、両眼間には幅の広い暗色の帯があることが多い。常緑広葉樹の自然林内を流れる河川の源流域に生息する。
		②分布域	沖縄県
		③個体数	不明
		④減少要因	開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコによる捕食）。
		⑤その他	沖縄県の天然記念物に指定されている。
<p>9. オキナワイシカワガエル (<i>Odorrana ishikawae</i>)</p> <p>分類： アカガエル科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I B類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	成体の頭胴長はオスで92～108mm、メスで103～115mm。眼が相対的に大きく、吸盤、後肢のみずかきはアカガエル科の種としては良く発達している。背面の表皮には隆起・顆粒が多く、そのため凹凸が著しい。背面は草緑色の地に褐色の斑紋がある。腹面の地色は白く、暗色の斑紋が多数散らばる。近縁のアマイシカワガエルとは、背面の褐色の斑紋がより大きいこと、その形が単調であること、腹面の暗色斑が大きく、密であることなどで異なる。常緑広葉樹の自然林内を流れる河川の源流域に生息する。
		②分布域	沖縄県
		③個体数	不明
		④減少要因	開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコによる捕食）。
		⑤その他	沖縄県の天然記念物に指定されている。

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>10. アマイシカワガエル (<i>Odorrana splendida</i>)</p> <p>分類： アカガエル科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成体の頭胴長はオスで74～124mm、メスで95～137mm。奄美大島西部の個体群は雌雄ともに他地域のものより大型であるとの報告がある。眼が相対的に大きく、吸盤、後肢のみずかきはアカガエル科の種としてはよく発達している。背面の表皮には隆起・顆粒が多い。腹面を除き、黄緑色の地に黒褐色の斑紋が散らばる。近縁のオキナワイシカワガエルとは背面の色彩や隆起の形態が違うほか、腹面の模様が少ないこと、後肢の内しよ隆起が大きく頭部が小さいことなどで区別される。カマドウマ、ヤスデ、ナメクジ、ミミズなどを捕食する。</p> <p>鹿児島県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコによる捕食）。</p> <p>鹿児島県の天然記念物に指定されている。 鹿児島県の希少種保護条例において、指定希少野生動植物に指定されている。</p>
<p>11. イボイモリ (<i>Echinotriton andersoni</i>)</p> <p>分類： イモリ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 II類 (VU)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成体の頭胴長は、オスが75～85mm、メスでは72～100mm。脊椎は著しく隆起する。肋骨が表皮のすぐ下を左右に伸び、そのため胴部の背面は全体として葉脈状に凹凸する。ほぼ全身が黒褐色であるが、総排出腔周辺、四肢の下面、肋骨の先端部は橙色となりよく目立つ。常緑広葉樹の自然林、二次林、草原、池沼などに生息し、ミミズ類、陸貝類、クモ類、ワラジムシ類、小型の甲虫類等を捕食する。</p> <p>鹿児島県、沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、外来種による影響（マングース、ノネコ、ティラピア等による捕食）。</p> <p>海外のインターネットフォーラム上で、繁殖個体とされる個体の取引が確認されている。 鹿児島県、沖縄県の天然記念物に指定されている。 鹿児島県の希少種保護条例において、指定希少野生動植物に指定されている。</p>

## ＜昆虫類＞

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)	
12. フサヒゲルリカミキリ <i>(Agapanthia japonica)</i>  分類： カミキリムシ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、イ ウ、エ	①種の特徴	成虫は体長15～17mm。体は黒から紫藍色、上翅は紫藍から緑藍色の弱い金属光沢を持つ。触角は第1、3節端がフサ状で、雌雄とも上翅端を越す。ユウスゲの生育する湿地から草地に限って生息する。
		②分布域	北海道と本州に記録があるが、現在は長野県と岡山県に分布する。
		③個体数	不明
		④減少要因	開発および管理放棄等に伴う生息地の減少、自然遷移やシカ食害による食草の減少、愛好家等による違法採取。
		⑤その他	インターネットオークションにて、標本の取引が確認されている。 岡山県の希少野生動植物保護条例において、指定希少野生動植物に指定されている。 長野県の希少野生動植物保護条例において、特別希少野生動植物に指定されている。 長野県や岡山県等が生息域内・生息域外保全を実施している。
13. マダラシマゲンゴロウ <i>(Hydaticus thermonectoides)</i>  分類： ゲンゴロウ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)	ア、イ ウ、エ	①種の特徴	成虫は9-10mm。全体はほぼ黄褐色で、上翅はやや暗色。上翅肩部、中央部、翅端前に不規則な黒横帯が存在することから、他種との区別は容易である。丘陵地の湧水で水生植物の豊富な小池沼や水田、休耕田に生息することから、本種は水温の低い貧栄養な環境を好むと考えられる。
		②分布域	京都府、三重県、滋賀県、奈良県(近年の記録)
		③個体数	不明
		④減少要因	開発および管理放棄等に伴う生息地の減少、農薬汚染、外来種による影響(アメリカザリガニによる捕食)、愛好家等による採取。
		⑤その他	

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>14. オキナワマルバネクワガタ (<i>Neolucanus okinawanus</i>)</p> <p>分類： クワガタムシ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 固有種</p>	<p>ア、ウ エ</p>	<p>①種の特徴</p> <hr/> <p>②分布域</p> <hr/> <p>③個体数</p> <hr/> <p>④減少要因</p> <hr/> <p>⑤その他</p>	<p>成虫は、オス42.5～70.0mm、メス40.0～56.0mm。オスメスとも体色は黒色で体型は楕円形。全体に光沢が強い、オスの大腮は日本産のマルバネクワガタ類の中で最もよく発達し、原歯型から基部の内歯を欠く完全な長歯型までが連続して見られる。オスの大腮には、先端のすぐ後方に上向きのやや大きな歯状突起があるが、中央付近や基部にはない。眼縁突起の張り出しは、やや弱くほぼ直角となる。幼虫の餌腐植質が十分に堆積したスダジイなどの大木が生育する状態の良い自然林に生息する。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、愛好家等による採取、森林の乾燥化等。</p> <p>インターネットオークション及び業者ホームページにて、多数の成虫標本、生体（野外採取個体および飼育繁殖個体）の取引が確認されている。</p>
<p>15. ウケジママルバネクワガタ (<i>Neolucanus protogenetivus hamaii</i>)</p> <p>分類： クワガタムシ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN) 固有亜種</p>	<p>ア、ウ エ</p>	<p>①種の特徴</p> <hr/> <p>②分布域</p> <hr/> <p>③個体数</p> <hr/> <p>④減少要因</p> <hr/> <p>⑤その他</p>	<p>成虫はオス48.5～64mm、メス48～51mm。体色は黒色で体型は楕円形。オスの眼縁突起は鈍角であり突出せず、側縁部はほぼ平行になる。大腮先端の突起はほぼ垂直に上を向き、55mm以上の個体には大腮の基部にも上向きの突起が出現する。近縁のアマミマルバネクワガタに似るが、より大型で長歯型に近い個体も出現し、内歯の消失傾向が強い。前胸背板は光沢が鈍く、後角の突出は弱い。幼虫の餌腐植質が十分に堆積したスダジイなどの大木が生育する状態の良い自然林に生息する。</p> <p>鹿児島県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、愛好家等による違法採取、森林の乾燥化等。</p> <p>インターネットオークションに業者もしくは愛好家による累代繁殖個体と思われる幼虫生体、採集規制前とされる成虫標本の取引が確認されている。</p> <p>奄美大島の5市町村の希少野生動植物の保護に関する条例で種指定されている。</p> <p>瀬戸内町の天然記念物に指定されている。</p>

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>16. ゴマシジミ本州中部亜種 <i>(Maculinea teleius kazamoto)</i></p> <p>分類： シジミチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) 固有亜種</p>	<p>ア、イ ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成虫はやや小型（開張30～46 mm）。翅形はオスの翅頂部がより強く尖り、メスでは全体的に丸味を帯びてやや横長となる傾向がある。オスの翅表は基部にわずかな青色鱗を残し、メスの翅表は全面黒色となるのが特徴とされるが、変異が著しい。地色が青色ものは前後翅とも中室端および外中央部に黒点が出現、外縁にはやや太い黒帯が走る。裏面の地色は淡褐色～灰白色、亜基部から外縁に小さな黒点列が並ぶ。採草地や農地周辺の草地などのおもに草刈りなどによって人為的に維持される半自然のススキ草原に生息するが、産卵植物であるワレモコウが生育すると同時に、寄主アリであるクシケアリ属の一種のアリが生息していることが必要である。</p> <p>本州の東北～関東～中部に広く分布していたが、現在は山梨県と長野県に分布する。</p> <p>不明</p> <p>開発および管理放棄に伴う生息地の減少、愛好家等による採取。</p> <p>インターネットオークションにて、成虫標本の取引が確認されている。 長野県松本市の市特別天然記念物に指定されている。 保全団体が生息域内保全を行っている。</p>
<p>17. アサマシジミ北海道亜種 <i>(Plebejus subsolanus iburiensis)</i></p> <p>分類： シジミチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN) 固有亜種</p>	<p>ア、イ ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成虫は比較的小型（開張28～30 mm）。オスの翅表は灰色をおびた淡青色で、外縁黒帯は細い。メスの翅表は暗褐色、後翅表面亜外縁の橙色斑はほとんど消失するか極めて微弱。裏面の斑紋はオスメスにあまり大差なく、前後翅とも亜基部から外縁にかけて縦に黒点列が並び、後翅前縁近くの第7室の2黒点はしばしば連結する。亜外縁には橙色帯が目立ち、地色は白色またはそれに近い。平地から低山地の道路や農地沿いの半自然の草地、疎林に囲まれた自然草地に生息する。</p> <p>北海道</p> <p>不明</p> <p>開発および管理放棄等に伴う生息地の減少、愛好家等による採取。</p> <p>インターネットオークションにおいて成虫標本の取引が確認されている。 地元関係団体が生息域内保全を行っている。</p>

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>18. ウスイロヒョウモンモドキ (<i>Melitaea protomedia</i>)</p> <p>分類： タテハチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I A類 (CR)</p>	<p>ア、イ ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>成虫は小型（開張35～45 mm）。翅表は橙色で、黒褐色の複数の不規則な条線が走り、全体的にレンガ状の斑紋となる。前翅裏面はやや淡い橙色で、外縁および亜外縁に淡黄色の斑紋列がある。後翅裏面の基部、中央部、亜外縁・外縁部は拡大した淡黄色の斑紋で敷き詰められ、亜基部および外中央部は赤褐色帯を形成する斑紋列が並ぶが、外中央の赤褐色帯は上半部で細くなる。採草地や農地周辺、放牧地などの半自然のススキ草原に生息する。</p> <p>兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県</p> <p>不明（生息地点は数ヶ所程度）。</p> <p>開発および管理放棄等に伴う生息地の減少、ニホンジカによる食草等の被害、愛好家等による採取等。</p> <p>インターネットオークションにて、野外採集個体および繁殖個体（卵、幼虫、成虫標本）の取引が確認されている。</p> <p>鳥取県希少種保護条例において、特定希少野生動植物に指定されている。</p> <p>鳥取県や地元関係団体等が生息域内・生息域外保全を行っている。</p>
<p>19. アカハネバッタ (<i>Celes skalozubovi akitanus</i>)</p> <p>分類： バッタ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I A類 (CR)</p>	<p>ア、イ、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>中～大型のバッタ。成虫はオスで25～27mm、メスは30～40mm。灰褐色から淡褐色の個体が多い。前胸背板中央の稜は明瞭だが、あまり高くない。翅は後腿節を僅かに越え、不規則な多数の暗褐色紋をもつ。後腿節の背面より内面に黒褐色の3帯があり、後脛節には3個の暗い藍色の環がある。一見クルマバッタモドキに似るが、オスメスともに後翅基部が赤いので区別は容易。主に海岸近くにある松林の下や、内陸では高原地帯の半自然草原や管理された採草地で見られた。</p> <p>本州の東北地方から中部地方までに点々と見られ、一時は絶滅と思われたが、近年、長野県、山形県、新潟県で再発見された。</p> <p>不明</p> <p>管理放棄等に伴う生息地の減少。</p> <p>長野県の希少野生動植物保護条例において、特別指定希少野生動植物種に指定されている。</p>

## ＜植物＞

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)	
20. サキシマハブカズラ <i>(Rhaphidophora kortharthii)</i>  分類： サトイモ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)	ア、エ	①種の特徴    ②分布域 ③個体数 ④減少要因 ⑤その他	常緑のつる性草本。幼植物は岩や樹幹に付着して這い上がり、葉を2列に互生する。葉身の長さが数cm以下の幼葉は成葉と形態が著しく異なり、葉は円形、鈍頭、心脚、ほぼ無柄で、葉身は基物に付着するように接する。生長すると葉身は基物から離れる。成熟植物の葉は卵状楕円形で羽状に深裂し、長さ50cm、幅20cm、革質、裂片は菱形。葉柄は長さ30cm。肉穂花序は頂生し、長さ15cm、仏炎苞で包まれる。山地の陰湿な常緑広葉樹の自然林に生育し、岩上や樹上に這い上がる。  ②分布域 沖縄県 ③個体数 不明 ④減少要因 産地極限、愛好家等による採取。 ⑤その他 生育地の一部は西表石垣国立公園。
21. ヒメハブカズラ <i>(Rhaphidophora liukuensis)</i>  分類： サトイモ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)	ア、ウ エ	①種の特徴    ②分布域 ③個体数 ④減少要因 ⑤その他	岩や樹幹に付着して生える常緑のつる植物。葉身は長楕円形～披針形、長さ17～30cm、幅5～11cm。仏炎苞は多肉質で長楕円形、淡黄白色。肉穂花序は円筒状で、長さ8～9cm、径約1cm。山地の溪谷やマングローブ林内に生育する。  ②分布域 沖縄県 ③個体数 不明 ④減少要因 開発等による生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。 ⑤その他 石垣市の条例に基づく保全種に指定されている。植物園で生息域外保全が行われている。
22. マキノシダ <i>(Asplenium formosae)</i>  分類： チャセンシダ科  環境省 RL ランク：絶滅危惧 IB類 (EN)	ア、ウ エ	①種の特徴    ②分布域 ③個体数 ④減少要因 ⑤その他	常緑多年草。根茎は短く、葉を束生する。鱗片は暗褐色からほぼ黒色、披針形、縁辺に不鮮明な鋸歯がある。葉柄は長さ15～35cm、わら色まれに褐色を帯び、下半分に鱗片が多い。葉は1回羽状(単羽状複生)、長さ15～40cm、1個の頂羽片と2～5対の側羽片を持ち、羽片は短い柄を持ち長さ10～15cm、ほぼ全縁、披針形で基部はくさび形、先端は鋭尖頭から尾状。孢子嚢群は線形で、中肋付近から辺縁近くまで伸び、長さ1～1.5cm。山地森林内の溪流沿いの岩上に生育する。  ②分布域 沖縄県 ③個体数 不明 ④減少要因 開発等に伴う生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。 ⑤その他 インターネットオークションでは国外産(台湾産)の株の取引が確認されている。植物園で生息域外保全が実施されている。

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)
23. フササジラン <i>(Asplenium griffithianum)</i>  分類： チャセンシダ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)	ア、エ	①種の特徴 岩上に着生する常緑のシダ植物。根茎は短く這い、葉を叢生する。葉は単葉で披針形、葉柄と葉身下部と区別がつかず、基部近くまで狭い翼があり、長さ5～15(～30)cm、幅1.5～2(～3)cmで多肉質。葉身の上半部で鈍鋸歯縁、葉脈は中肋と50度以上の角度でつき、葉縁に達せず、すべて遊離。胞子嚢群は線形で直線状、長さ1cmに達する場合もある。包膜は全縁。低地の溪流沿いの湿った森林内、岩上に生育する。 ②分布域 鹿児島県 ③個体数 不明 ④減少要因 開発等に伴う生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。 ⑤その他 インターネットオークションでは株の取引が確認されている。 屋久島国立公園の指定植物である。
24. ヤクシマタニイヌワラビ <i>(Athyrium yakusimense)</i>  分類： メシダ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、ウ	①種の特徴 常緑のシダ植物。根茎はほぼ直立、葉柄基部とともにやや淡い褐色の鱗片があり、葉柄と中軸は鮮やかに紅紫色を帯びる。葉身は三角形～卵状三角形、長さ20～40cm、幅15～30cm。2回羽状複生。羽片は8～10対と少なく、柄は短いのはっきりして、最下羽片では、長さ2～4mm、葉質は硬く、羽軸の向軸側(表面)に棘はなく、基部に棘があっても短い。小羽片は鋭頭、基部は広くさび形、包膜の辺縁はやや不規則に切れ込む。タニイヌワラビに似ているが、葉柄の鱗片が明るい褐色であり、葉身が三角状である、などの点で異なる。屋久島の標高500～1000mの山地の森林内の林床に生育する。 ②分布域 鹿児島県 ③個体数 不明 ④減少要因 産地極限、シカ食害。 ⑤その他 屋久島国立公園の指定植物である。
25. ホソバシケチシダ <i>(Cornopteris banajaoensis)</i>  分類： メシダ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN) 固有種	ア、ウ	①種の特徴 常緑のシダ植物。根茎は直立から斜上し、葉を叢生する。葉柄は長さ20～60cm、緑色を帯び、乾くと褐色になる。基部は膨らみ、褐色の鱗片をつける。葉身は三角形から三角状卵形、長さ20～60cm、幅15～40cm。3回羽状に深裂する。最下羽片の最下小羽片は短くなる。胞子嚢群は円形から楕円形。山地の森林内の陰湿な林床に生育する。 ②分布域 鹿児島県、東京都 ③個体数 小笠原諸島に数百株と推定 ④減少要因 屋久島ではシカ食害 ⑤その他 屋久島国立公園の指定植物である。

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)	
26. アオイガワラビ <i>(Diplazium kawakamii)</i>  分類： メシダ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、ウ	①種の特徴	常緑のシダ植物。根茎は短く、横走から斜上し、葉は混み合っつく。葉柄は長さ30～70cm、わら色、全体に黒褐色の硬い棘状の鱗片がある。葉身は三角形、長さ40～70cm、幅30～60cm、3回羽状に深裂する。下部羽片は長い柄がある。深緑色で、草質。孢子囊群は長楕円形、2次小羽片の中肋に接して並び、斜上する。包膜は孢子囊群を深く抱き、成熟すると不規則に裂ける。森林内の陰湿な林床に生育する。
		②分布域	鹿児島県
		③個体数	不明
		④減少要因	産地極限、シカ食害。
		⑤その他	屋久島国立公園の指定植物である。
27. ホソバコウシュンシダ <i>(Microlepia obtusiloba var. angustata)</i>  分類： コバノイシカグマ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、ウ	①種の特徴	常緑性草本。基本種コウシュンシダ ( <i>M. obtusiloba</i> ) は、根茎は匍匐し、径3～5mm、黒褐色の剛毛がある。葉柄は長さ20～50cm、暗褐色、短い軟毛は早落性で、ふつうはほぼ無毛。葉身は長楕円状披針形、株は狭くなり、上部も鋭尖頭の先端に向かって次第に狭くなり、長さ30～80cm。幅10～30cm、薄い草質で深緑色、2～3回羽状複生。上記の基本種に比べ本変種は、葉身は細く披針形、葉身は2回羽状複生、小羽片の裏面脈上にはややまばらに長く白い毛があり、包膜は広い半杯形である。暖地の森林内に生育する。
		②分布域	鹿児島県
		③個体数	不明
		④減少要因	シカ食害、開発等に伴う生育地の減少。
		⑤その他	屋久島国立公園の指定植物である。
28. ヤクシマリンドウ <i>(Gentiana yakushimensis)</i>  分類： リンドウ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IB類 (EN) 固有種  特定国内希少野生動植物種	ア、ウ エ	①種の特徴	夏緑的な多年生草本。高さ7～20cm。葉は4個が密に輪生し、線状披針形で長さ1～2cm。8月、茎頂に花が1個つく。花冠は青紫色で、長さ3～4cm、先は6～8裂し、副片がある。萼も6～8裂する。屋久島高地の路傍や岩場の草地に生育する。
		②分布域	鹿児島県
		③個体数	不明
		④減少要因	開発等による生育地の減少、人の踏みつけ、愛好家等による採取。
		⑤その他	商業的な流通量は普通と回答があった。JFコードに登録がある。インターネットオークション及び業者ホームページで株の取引が確認されている。屋久島国立公園の指定植物である。
29. ヒモスギラン <i>(Lycopodium fargesii)</i>  分類： ヒカゲノカズラ科  環境省RLランク：絶滅危惧	ア、エ	①種の特徴	樹幹に着生する常緑性草本。茎は基部で叉状に分岐し、長さは30cmか、それ以上になる。葉は斜上、中部から先は内曲し、小さく、長さは1mm前後、針形か針状披針形。孢子囊は枝端近くにつき、孢子葉は栄養葉より少し短く、少し幅広い。暖地の山地の森林内に生育する。
		②分布域	鹿児島県
		③個体数	不明

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)
I A類 (CR)		④減少要因 ⑤その他 愛好家等による採取。 インターネットオークションにて株（輸入品）の取引が確認されている。 屋久島国立公園の指定植物である。
30. キバナシュスラン <i>(Anoectochilus formosanus)</i>  分類： ラン科  環境省RLランク：絶滅危惧 I A類 (CR)  特定国内希少野生動植物種	ア、ウ エ	①種の特徴 小型の常緑の多年生地生ラン。茎は匍匐し、先は直立、花序を含めて長さ20cmになり、3～4葉を互生する。葉は広卵形、長さ3.5～4.5cm、上面は帯紫暗緑色で、通常脈上に白色または淡黄色の網目模様が入り、下面は帯赤紫色。総状花序は頂生し、3～5花を疎らにつける。萼片は赤褐色、背萼片は長さ6～7mm、側萼片は長さ8～10mm、花弁は白色、長さ8mm、唇弁は長さ18mm、白色、先端は2裂し、基部から中央にかけて櫛の歯状に5～7対の黄色の糸状突起があり、基部は短い距となる。暖地山地の自然林の林床に生育する。 ②分布域 沖縄県 ③個体数 約百個体と推定。 ④減少要因 開発等による生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。 ⑤その他 商業的な流通が確認され、国内に生産小売業者が確認されている。JFコードに登録がある。台湾の業者の国内販売も確認されている。中国を中心に漢方薬として流通する。インターネットオークション及び業者ホームページで株の取引が確認されている。 西表石垣国立公園の指定植物である。 植物園で生息域外保全が行われている。
31. コウシュンシュスラン <i>(Anoectochilus koshunensis)</i>  分類： ラン科  環境省RLランク：絶滅危惧 I A類 (CR)	ア、ウ エ	①種の特徴 小型で常緑の多年生地生ラン。茎は匍匐し先は直立して節よりひも状の根を出す。花序を含めて長さ16～20cm、3～4葉を互生する。葉は広卵形または披針形で柄がある。長さ2.5～4.5cm、上面は帯紫暗緑色で、通常脈上に白色または淡黄色の網目模様が入り、下面は帯赤紫色。総状花序は頂生し、3～5花をまばらにつける。萼片は淡赤褐色、背萼片は長さ6mm、側萼片は長さ8mm、花は白色。長さ6mm、唇弁は長さ12mm。先端が2裂し、中央に1対の狭三角形の突起があり、基部に長さ7mmの2浅裂する距がある。蕊柱は短く、葯は2室で花粉塊は2個。暖地山地の自然林の林床に生育する。 ②分布域 鹿児島県、沖縄県 ③個体数 不明 ④減少要因 開発等による生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。 ⑤その他 西表石垣国立公園の指定植物である。

種名 (学名)	指定要件※	指定理由 (生息状況等)	
32. オオスズムシラン <i>(Cryptostylis arachnites)</i>  分類： ラン科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)	ア、ウ エ	①種の特徴  ②分布域 ③個体数 ④減少要因 ⑤その他	常緑の多年生地生ラン。茎はごく短く、1~2葉をつけ、根はやや肥厚する。葉は卵形~卵状楕円形、長さ15cm、上面はほぼ一様な緑色で、長さ10cmの葉柄がある。総状花序は頂生し、長さ50cmになり、10~18花をつける。萼片と萼片は黄緑色、線形、萼片は長さ1.3~1.7cm、萼片は長さ1.1cm、唇弁は長さ1.5~2cm、狭卵形、橙色で、先端に赤褐色の細点が入る。暖地山地の自然林の林床に生育する。  沖縄県  不明  開発等による生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。  生育地の一部は西表石垣国立公園、一部は国有林の西表島森林生態系保護地域である。
33. ヒメクリソラン <i>(Hancockia uniflora)</i>  分類： ラン科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)	ア、ウ	①種の特徴  ②分布域 ③個体数 ④減少要因 ⑤その他	常緑の地生ラン。偽球茎は円錐形。葉は2~3個、やや離れてつき、表面緑紫色、裏面暗紫色、卵状長楕円形で、長さ4~6cm。花茎は弧状に湾曲して上向き、7月茎頂に淡紅色の1花をつける。唇弁は楕円形、長さ19mm、その下部は長さ2cmにも及ぶ長い距となる。雑木林の林床に生育する。  鹿児島県  不明  産地局限、シカ被害。  屋久島国立公園の指定植物である。
34. ナンパンカモメラン <i>(Macodes petola)</i>  分類： ラン科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)  特定国内希少野生動植物種	ア、ウ エ	①種の特徴  ②分布域 ③個体数 ④減少要因 ⑤その他	小型の常緑の多年性地生ラン。茎は匍匐し、先は直立する。3~6葉を互生し、花序を含めて長さ20~30cmになる。葉は卵形、深緑色で長さ5~6.5cm。上面は銀白色の網目模様が入り、下面は緑白色。総状花序は頂生し、15~40花をつける。花は淡黄緑色で褐色を帯び、花被片の先は白色となる。低地の自然林の林床、溪流近くのやや湿った林床に生育する。  沖縄県  不明  開発等による生育地の減少、産地極限、愛好家等による採取。  洋ラン業者を中心に東南アジア産の増殖株と思われるものが販売されている。JFコードに登録がある。インターネットオークション及び業者ホームページでは株の取引が確認されている(国外産を含む)。植物園で生息域外保全が行われている。

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>35. ヒメカクラン (<i>Phaius mishmensis</i>)</p> <p>分類： ラン科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I A類 (CR)</p>	ア、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>常緑の多年性地生ラン。偽球茎は束生し、棒状で、長さ40～60cm。数葉を疎らに互生する。葉は倒卵状長楕円形で上面にやや光沢があり、長さ20～30cm。総状花序は偽球茎の途中から生じ、長さ8～30cm、疎らに8花程度をつける。花は淡紅紫色、唇弁の上面には紅紫色の細点が多数入り、萼片と花弁は長さ3～3.5cm、萼片は長楕円形、花弁は線状倒披針形、唇弁は長さ2.5～2.8cm、先端は3浅裂し、側裂片は半卵形、中央裂片はやや四角形、小凹頭、中央に毛の生えた4列の板状突起があり、基部に長さ1cmの距がある。山地の自然林の林床に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>産地極限、愛好家等による採取。</p> <p>西表石垣国立公園および沖縄海岸国定公園の指定植物である。 植物園で生息域外保全が行われている。</p>
<p>36. ハガクレナガミラン (<i>Thrixspermum fantasticum</i>)</p> <p>分類： ラン科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I A類 (CR)</p>	ア、ウ エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>樹枝上に生育する小形の多年性着生ラン。茎は長さ1～4cm、葉を2列に接して互生する。葉は革質、長楕円形、長さ2～5cm。総状花序は腋生し、長さ4～7cm、数花を密につけ、1個ずつ順次咲かせる。花は白色、唇弁には黄褐色の斑点が入り、萼片と花弁は長さ4mm、広楕円形、唇弁は長さ3mm、基部で3裂し、側裂片は斜楕円形、直立して蕊柱を包み、中央裂片は半円形、基部上面に毛の生えた1対の突起がある。開花期は2～5月。空中湿度の高い、暖地の山地自然林や、川沿いの常緑広葉樹林の枝上に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等による生育地の減少、産地局限、愛好家等による採取。</p> <p>植物園で生息域外保全が行われている。</p>
<p>37. ヤエヤマヒメウツギ (<i>Deutzia yaeyamensis</i>)</p> <p>分類： ユキノシタ科 (アジサイ科)</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I B類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>落葉低木。高さ1m前後で、よく分岐し、ふつう垂れ下がる。枝は褐色を帯び、無毛。葉身は楕円形～卵形で先端は鋭尖形、基部は鈍形または円形、縁には微細な鋸歯があり、長さ5～13cm、幅2.5～6cm、やや厚く、表面には星状毛と単毛を散生し、裏面は淡緑色で、脈上に星状毛がやや密生するほかは無毛。葉柄は長さ4～10mm、星状毛を散生。円錐花序は頂生し、白色の5～10花をつける。花糸の翼の上端に歯がない。若い枝と花序には星状毛が散生する。川沿いや海辺の陽当たりの良い崖に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>産地極限、愛好家等による採取。</p> <p>西表石垣国立公園の指定植物である。</p>

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
<p>38. コモチナナバケシダ (<i>Tectaria fauriei</i>)</p> <p>分類： ナナバケシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>特定国内希少野生動植物種</p>	ア、ウエ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>常緑性の多年草。根茎は短く斜上し、鱗片がある。鱗片は三角状披針形、全縁、長さ18mm、幅2mmで暗褐色。葉柄は長さ30～60cm。基部に鱗片があり、葉柄には淡褐色の翼がある。葉身は単葉から単羽状、単羽状葉は長さ45cm、幅30cmの超楕円形。羽片の基部に無性芽をつける。側羽片はほぼ全縁、長さ20cm、幅7cmに達する。最下羽片の基部下側に小さい側羽片のような小羽片が一つある。頂羽片は側羽片に似て、大きい。葉質はややしつかりした草質、緑色から深緑色で無毛。葉脈は網状、網目には遊離小脈がある。中軸、羽軸や脈の下面に微毛がある。孢子嚢群は円形か楕円形で葉裏に散在し、遊離小脈に頂生するか、網状脈につく。陰湿な森林内の岩の多い林床などに生育する。奄美諸島では石灰岩地の林床、沖縄島では非石灰岩地に生育する。</p> <p>鹿児島県</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>商業的な増殖個体の流通が確認されている（通信販売）。インターネットオークションでは株の取引が確認されている。 徳之島三町の希少野生動植物の保護に関する条例で種指定されている。 地元関係団体が、パトロールなど保護の取り組みを行っている。</p>
<p>39. ナガバウスバシダ (<i>Tectaria kusukusensis</i>)</p> <p>分類： ナナバケシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウエ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③個体数</p> <p>④減少要因</p> <p>⑤その他</p>	<p>常緑多年草。根茎は短く、斜上、葉を叢生し、鱗片をつける。葉柄は長さ30～40cm、茶褐色で有毛。根茎と葉柄基部の鱗片は披針形、全縁で褐色、長さ1cm、幅2mm。葉身は2回羽状複生し、長楕円形から広披針形で鋭尖頭、長さ40～100cm、幅20cm程度、葉柄と合わせると長さ1mを超えるものもある。羽片は線状披針形、鋭尖頭で深裂し、最下羽片が最も大きく深く切れ込む。裂片は長楕円形、鈍頭から円頭、全縁またはまばらな鋸歯縁。葉脈はすべて遊離。中軸には有節毛が多い。孢子嚢群は円形で、径約1.5mm、包膜は円腎形。低地から高地の森林内の溪流に近い陰湿な林床や崖面に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>不明</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、愛好家等による採取、産地極限。</p> <p>植物園で生息域外保全が実施されている。</p>

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)	
40. シマヤワラシダ <i>(Thelypteris gracilescens)</i>  分類： ヒメシダ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、ウ	①種の特徴	常緑の多年草。根茎は短く横走または斜上する。葉身は2回羽状全裂。長さ25～35cm、幅7～9cm。長楕円形から披針形。葉質は紙質か軟らかい紙質。深緑色。羽片は無柄で最下のものが最大である。葉面は無毛。葉柄は長さ17～30cm、淡緑色。葉柄や葉脈には硬い単細胞毛がある。孢子嚢群は主脈の両側に2列に並ぶ。低地の森林内の陰湿な林床に生育する。
		②分布域	鹿児島県
		③個体数	不明
		④減少要因	産地極限、シカ被害。
		⑤その他	屋久島国立公園の指定植物である。
41. シマキンレイカ <i>(Patrinia triloba var. kozushimensis)</i>  分類： オミナエシ科  環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR) 固有種	ア、ウ エ	①種の特徴	多年草。地下茎は横に伸び、よく発達する。葉は対生し厚く、葉身は掌状に3～5中裂。花は黄色の小花を集散花序につける。筒状で黄色い花を多数つけ、距は短い。花期は7～8月。全株ほとんど無毛。高標高地の火山草原や岩場に生育している。
		②分布域	東京都
		③個体数	不明
		④減少要因	開発及び自然遷移等に伴う生育地の減少、愛好家等による採取。
		⑤その他	神津島で地元関係団体がパトロールを行っている。

## ※選定要件について

○希少野生動植物種保存基本方針(平成4年総理府告示第24号) (抄)

## 第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

## 1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）で、以下のいずれかに該当するものを選定する。

ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種

イ 全国の分布域の相当部分で生息地又は生育地（以下「生息地等」という。）が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種

ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種

エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種